

創立60周年記念誌（石川満祐 編）より

会 場 駅前大黒屋

日 時 昭和52年6月25日 自 午後6時 至 午後8時

出席者

同窓側

白川 哲司 大13.3(甲種第2回卒) 上越衣料店連合会長
 山田 正義 昭2.3(甲種第5回卒) まるせんデパート社長
 浅野 俊夫 昭4.3(甲種第7回卒) 元上越市社会教育課長兼水族館長
 石原 慶司 昭7.3(甲種第10回卒) (有)石原食料品店社長
 鈴木 清一 昭12.3(甲種第15回卒) 鈴木紙・文具店
 渡辺 善一郎 昭13.3(甲種第16回卒) いずもや百貨店社長
 小坂 圭一 昭14.3(甲種第17回卒) 上越繊維(株)社長
 檜野 利雄 昭17.12(甲種第21回卒) (株)檜野商店社長
 上田 誠治 昭20.3(甲種第23回卒) 上田経理事務所
 五十嵐 団治 昭21.3(甲種第25回卒) 高田女子高校教諭
 菊谷 豊司 昭23.3(甲種第26回卒) (株)丸庄専務 上越市議
 三田村 一弥 昭23.3(甲種第26回卒) 大和上越店
 村田 耕一 昭27.3(高校第4回卒) 村田文具店
 中村 行雄 昭29.3(高校第6回卒) 文化印刷(株)専務

学校側

校長 川上 嘉清
 教頭 佐藤 哲也
 保坂 秀一 大滝 幸治 石川 満祐
 進行・記録 大滝 幸治 石川 満祐
 司会 白川 哲司



大滝 60周年事業も滞りなく終わり、記念誌の仕事が残りましたが、今日は記念誌の最後を飾る座談会を、大勢の方々にお集まり願ひまして開きたいと思ひます。

石原 本日は編集関係者の設定で、お集まり願ったわけでございます。私達同窓にも、すでに貴重な存在になりつつある方がございます。今のうちに色々話を伺って、後輩の為に残しておきたいと思ひます。遠慮なくお話ねがいたいと思ひます。学校を代表して校長先生一言、

校長 お忙しい所を大変有難うございました。記念事業の締括りの記念誌の、どうしてもお願いしなければならない事で、石川先生を中心に同窓会の方々、係の先生方が中心になって今やってもらっているわけです。けれども非常に緻密でして、今までの不備な所を今回全部やり直し、この記念誌を見れば本校の

歴史が全てわかるんだという物を作る為に期間をかけて苦勞しておりまして、編集も最後の段階に来ている様です。

この座談会だけは是非、と会長さんをお願いしたわけですが、すばらしい物ができますよう皆様の腹蔵のない思い出を開陳願いたいと思います。

大滝 本目の司会につきましては、一存ではございますが同窓会顧問の白川さんをお願いしてございます。

白川 紹介にあずかりました白川です。石原会長さんからお前は年寄りの生残りだから、何でも知っているだろうから、司会をやれという話があったので、私の方から、皆さん方学校を卒業されて比較的この土地においでになり、また、在学中色々な思い出をお持ちと思われる人を、ピックアップして本日お集り願ったわけで、限られた時間ではありますが、良い事、悪い事、思い出を語っていただきたいと思います。

司会 それではまず最初に自己紹介からお願いします。

山田 私はここに書いてある通り甲種第5回の卒業で、雪の昭和2年の卒業ですが、全くの大雪が思い出です。

浅野 第7回卒業の浅野と申します。入学したのが大正13年でございます。……で昭和に変わりまして、4年に卒業させていただきました。

石原 私は甲種第10回の卒業生でございます。ボツボツ支那事変が始まりまして、当時商工学校へ入る方が、中学へ入るより大変だった時代です。

鈴木 第15回卒業生の鈴木清一でございますが、昭和7年の4月に入って、12年の3月に卒業して、丁度満州事変が始まって、段々日本が戦争に入っていく時代でした。

渡辺 昭和8年に入学して、13年卒業の鈴木さんより一級下の学年です。入ってじきに満州事変があり支那事変が始まりました。

小坂 甲種第17回の卒業です。昭和14年に卒業しました。その後16年から戦争が厳しくなりましたので自由時代の最後の学校生活を送った者です。

樫野 昭和13年4月入学して18年3月卒業というのが正式でしょうが、16年から戦争が始まって3ヵ月繰上げ、12月に卒業した事になっています(卒業させられたのかなあ)。

上田 第23回卒業です。私のクラスは、在学5年間でなくて、丁度終戦の卒業に当りまして、学徒動員の最中でそのまま引継ぎ学徒動員をしているというわけで、終戦の日までいましたから確か5年間と5ヵ月くらい在学しました。

五十嵐 25回卒業で、入学したのが昭和17年の4月です。繰上げ卒業で4年で卒業しました。私達が商工学校の商業科卒業生です。商業科で入学して商業科で卒業したのは、私らだけです。

菊谷 私は昭和18年に入学しまして、商業科として入学しましたが、2年の時に全国的に商業科が廃上になりまして機械科に転科しました。

三田村 同じ甲種第26回の卒業です。丁度戦争も大東亜戦争の末期になります。そして商工学校としましても末期だったと思います。私共が入った時は商工学校の商業科として入りましたし、今まで先輩の商業科の他に木工科、漆工科とあったんですが、その2科目が廃止されまして、建築科って云うのが新しく出来た年なんです。それで実際は5年間学校あがりまして昭和23年春に卒業したわけなんです。

村田 商業高校に6年間お世話になったクラスでございます。一番長いんじゃないかと思えます。入学した時は工業学校だったんです。工業学校の商業を日指すものとして機械科に入りました。その当時の科というのは機械科、建築

科、土木科、木材工芸という4つのコースがあったんです。商業、経済を日指す者は機械科に入れようという事で……そして卒業は新制高校の商業科という事になったわけです。

中村 新制第6回の卒業です。男女共学になって第2回目のクラスです。

恩師の思い出

司会 当時の思い出の先生方……特徴とが、綽名等をひとつお話してください。

浅野 私が一番印象に残っているのは、野球部長をやっていた南里先生……。この方は長崎県の産でおられましたね。それでゴリラというあだ名がありました。今考えてみると、考えられない様なあだ名が沢山ありました。阿部先生、いや坂田アッペちゃ……。

司会 そういうものは学校の沿革誌に書いてありませんか(笑)

浅野 今存命中であればちょっと叱られることになるかなあ。

司会 ほめられたり叱られたりしたことはありませんか。

(ブルとアンチャ)

山田 大いに先生に感謝している事が一つあるんですが、神谷先生で、ブルってあだ名がありまして、国漢の先生で勿論、堅い方なんですけど、我々に説教される時には、後でバンバン叩きながら説教したんです。卒業して前橋へ見習奉公に行くときですが、小豆を摺って罐の中に詰めて、あの当時脚気はやりまして、これを食べれば絶対脚気にならんとという事で、今のビタミン剤だね、それを送っていただいた。非常な感激でした。学校を卒業してからも、我々卒業生の身上を案じて、就職先にそれを送っていただいたというのは、有難かったですね。勿論小僧から帰って来てから早速先生の所へお伺いしたんですが……。なかなか今時ない事ですね。

浅野 今、金沢におられて、この間、60周年にもお見えになったと思いますが、村松晃という先生ですが「アンチャ(ン)」、「ドブサギ」あの先生から、4年から5年になる時ですね、とにかく危ない、当時は落第があつて上から下がってくるんですね。お前もそのうちに入るかもわからんぞと、こういうわけで、あの先生は幾何の先生ですが、私は特に苦手だったので、先生に目をつけられていたわけなんですけど、しっかり勉強しろと懇々と一時間半くらい宿直室で言われた事が身にしみています。

白川 その村松先生ですが、先生は幾何を教えてらして大変点がからくてね。4年の2学期でしたか大体最高で20何点、あとは10点だの15点しかくれない。それで先生の所へ文句言いに行った。そして、「これは商業学校として、こんな事は必要ない。実社会へ出て必要ない。幾何というものはやめていただきたい。あんたがダメなら、校長さんの所へ行って話をする」、こう言ったんです。そうしたら村松先生曰く、「これは君等必要ないと言うけれど一番必要なんだ。これは常識を涵養する為に出来ている学問だ。嘘でも良いから、問題も答えも出ているんだから、嘘でも何でも良いからなる程と思わせる発見を遂げて常識を涵養することになる、そういう学問だ」、こういう事を言われて、成程と思って帰って来ました。クラスの者には、常識を涵養するもので、嘘でも何でも良いから成程と思わせる発見くらいしなくちゃだめだと……。そういう事がございました。

石原 私は神谷先生が一番懐かしい先生です。結局綽名をつけた先生が……。神谷ブル先生は国漢の先生をやっておられた。感極まって教壇に座ってお話されたという事もありました。それから磯チャップと云いましてね、猟銃を打った先生で、あの方は自殺されたという事があります。

渡辺 私と同じ名前の渡辺先生…ヤロさんといって非常に学生に信望があり、又、近代的でもあり、色々楽しい思い出もあります。満州事変が始まってからは初中終軍歌を教してもらったり、出征兵士を送る歌や、露營の歌だとか、今思い出してもあの時分ではハイカラな歌で、それを歌って出征兵士を送ったという様な思い出があります。

また1年の担任が代数の小山先生といって非常におっかない先生がいて5・6人でいたずらしていたら見つかって教壇に立たされ、鉛筆に三角定規をつけて、ぐるぐる回すのを皆んなの前でさせられた、今になると大変面白いけれど、その時分は、おっかない先生だと感じたことがございます。

小坂 先ほど話に出ました村松先生は5年生の時担任でした。今金沢に健在でおられます、もうかなりのお年だと思いますが…。

(校歌の小川先生)

入学して4年までの主任の先生は、校歌をつくられました小川先生です。先年仙台でなくなられまして、息子さんが横浜に居住されています。

石川 小川先生の息子さんから、たよりをいただき、鶴見のお宅へは私も訪ねてまいりまして、記念誌に関して資料をいろいろいただきました。

司会 校歌はいつごろできたんですか。

小坂 校歌はぼく達が入った時にはアルプス連峰の歌です。

司会 何回くらいから。

石原 第10回ぐらいだと思います。

小坂 応援歌は…今宵にこぼれて…は、あれは北大の寮歌の節をとりまして作詞者不明でございますが、よく歌いました。

司会 あれは生徒が作ったんです。

司会 昔はね、歌は軍歌調が主体になっておって、そして文句を作るといって、それをとって合わせて作ったというのがあれです。英語の応援歌があったのは本校唯一校でしたね。

小坂 それから先日私の会社をやめた人から本多石介先生の書かれました掛軸を一本ちょうだいしてありますが中々いい出来でございます。本多石介さんの話を聞きたいと思います。

(校長先生は俳僭師)

白川 本多石介さんの話がでましたので…先生は高田中学の教頭をしていられたんです。それまでは、市長さんが校長をしてられて、本多石介さんが商業の校長になってくださいました。卒業証書には、従六位本多石介、と書いてあります。それで中学にも人気がありましたので、柔道、剣道等中学と交流試合を仲良くやっていました。あの先生は俳僭師で、我々は英訳と英文法を習っておったんですが、教壇に向かって書いておられるんですが、そのうちにポカッと表の方を見ておられますが、スカッと俳句がうかぶと、授業をやめて黒板にすらすらと書かれるんです。そういうわけで校長先生は俳僭師だったんです。

(知らなかった校長交替)

五十嵐 私達は4年間のうち3年の5月からずうつと終戦まで学徒動員で名古屋へ行っていたのですが、その間先生方が一度、1ヵ月間、お見え下さいました。その時に、私達の同級生が、まあ、私もその仲間なのですが、先生のたばこを盗みに教官室に入りましてね。そのタバコを吸って、岡崎先生は「これは恩賜のタバコだ。このタバコだけは返してくれよ」と言つてね。私達はあわ

てて返した覚えがありますね。

そして校長が茂野松二郎先生に交替になって、私等が学徒動員の最中で交替になった事を何も知らない。それでたまたま、年取ったおっさんが、その、ゲートル巻いてですね、国民服を着て、お見えになりまして、私等友達の父兄が面会に来たのかと思って「あんた誰だ」と尋ねたところ「いやおれは今度来たこの学校の校長だ」って言われましてね、あわてて教室へ連れて行った記憶があります。

今一つ、私、今でも思い出があるのは幸田先生ですね。3年生になって英語が廃上になりましてね、非常に寂しそうな顔をしておられたのを、今でも覚えていますが、私等子供だったもので、英語が廃上になった、バンザイバンザイと云って喜んでいましたが、今私が自分で、教育の場に立って本当に、自分の教えている教科がなくなったら寂しいだろうなあと、幸田先生の気持ちも良くわかる様な気がしますね。非常に寂しそうな顔をしておられた事が忘れられませんね。

中村 私の在学の頃の先生方は非常に若い先生が続々と入られまして、未だ皆さんご健在でございますが、あの当時、保坂先生、それから亡くなられた小林先生、それから竹内先生、中村先生、皆川先生ですね。それでも、予科練帰りみたいな先生で、もう授業の度に殴られるのが、日常茶飯事で、特にあの小林先生っていう方は、ものすごく、体も六尺豊かな先生なものですから、一回叩かれると教室の端までふっとんだという様な事がございます。

高かった学力と旺盛なプライド

司会 ありがとうございます。今お聞きのとおり商工学校時代だけでも、この様に年代が非常に屈折していますが、その中において商工学校の生徒として、どの様なプライドをもって居られましたか。

山田 私達が直江津から高田の商業へ上ると言う事は、学校のまあ成績がですね、少なくとも10番以内、内申の様な形もあった様ですが、まあ優秀でなければ入れない……7人受けて2人しか入らなかったんです。私の時は、そういう試験地獄という形で、また入れれば落第があつて、上から落ちて来た者もあるし、私のクラスから下の方へ下がった者も有るし、だいたいカンニングして見つかつて落第、1科目40点あると落第、平均点75点であっても40点一つあると落第ですね、それで自分でやめていくんですね。

新学年になって並んでみると10人のうち1人が並んでいない。「あんた方こっちじゃないかね」「ええ私等またここだわね」と、それだけ真剣に勉強しなくちゃならなかった。

鈴木 昭和7年の4月に入りましたんですけれども商業の方が中学よりも難かしかつた様な気がしますね。そして両方入った方で中学をやめて商業ってわけで、こういう方もおられましたなあ。55人入ったんですが、卒業する時に45人位で、落第も2、3人ですけれども、父親が死んだとか、火災があつたとかやむなくやめる人が多かつたですね。

白川 商工学校の生徒としては、当時、高田師範、中学校、高田農学校というような、中々の老舗の学校がございまして、非常に若い、数の少ない学校でございまして背伸びをしていたと言えましようか、実力でこいと云うことで……我々は商工学校の生徒であるという事のプライドを持ち、常に胸を張って、我々の後にはすばらしい後輩がどんどん入って来られるんだから、我々が、その道をふさいではならないと、常にそう思っていました。

石原 同級生名簿を見ますと、大体5、6人が上から落ちてきた人がいますが、入る時も難しいし、卒業するのも落第が多くて難しい時代でしたが、私は優秀でしたので5年で卒業しました(笑声)。

浅野 当時50何人一緒に入りましたが、だいぶ脱落しまして卒業する時には35、6人で、そんな風でありますから、勉強は厳しくそしてそれだけにプライドを持っていました。

白川 私達の時代には、商業科は月謝が要って、工業科は製作をすると月に3円とか5円とか金を払うわけで、商業科は、月謝を払って勉強しているんだというプライドがあり、青、赤二色のインクビンと簿記棒とソロバンを腰に下げ黒縹子の風呂敷に本を包んで登校したものです。

五十嵐 私等が最後の商業というわけで、後は機械科に変わりましたので、それで我々が商業科だというプライドはありました。

甲種認定

石川 ところで文部省の甲種学校5年の認定試験についてのお話をどなたか……

白川 それでは私から……、大正11年の12月新校舎へ引越しをしまして、翌年1月の13日に校長が4年と5年を集めて、来る1月18日と19日の2日間に亘って、文部省の督学官が来て、甲種認定試験をする、おまえ等しっかりやってくれと。その代りに2日間の有給休暇をやるから休めと。その後しっかり勉強しろと。こういう形でやりまして私等もその検定受けたんですが、文部省督学官が問題を持ってきて、県からも2人来られました。計4人見えましました。岡庭君達第1回卒業生と私達第2回卒業生が同じ問題をやった訳で、第1回生、5年生の平均点60、私等の方が73点、同じ問題でね、そして平均して71点ですか、無事に検定試験合格しました。その後において私等第2回生が試験の成績が上だったから、本物の第1回生は我々だから今後そのつもりでいていただきたいと、随分気を大きくしたものです。

こういう時期ですから、カンニングは絶対しませんし、3分の2位は落第してどんどん落ちました。とにかく実力をつけるという事でやってきました。我々は金を出して学校へ授業を習いに行き、先生の持っておられるものを全部吸収しなくちゃならないという気持と新校舎の整地等、自分達の力で一步一步と今の南城高校ですね、あすこの形を築いてきたので非常に記憶が深いですね。

司会 この辺で旧制の終り頃、戦時色が強くなり戦争末期の苛烈な時代から敗戦へ、学制の変革やら、生活の困窮、復興へと変転していった時代へと話をすすめたいと思います。榎野さんの時代は……

戦時色濃く

榎野 私達が入りました年に制服がカーキ色に変わりました、2年生から上は黒い服を着ているのに非常に嫌な感じをもって入学した事を覚えています。そして16年から戦争が始まってから徴用が始まり、学校を卒業すると、どこかの軍需工場に勤めていないと徴用に引っぱられてしまう、信越化学、ステンレス、東京あたり、横須賀の海軍工廠へ行くのが多かったです。

私もそういう所へ行くのはいやだし、どこかの学校へでも行けば免除になるという事で5年になってから、あわてて入試の準備をして名古屋の学校へ行ったんですが、それも卒業前に学徒出陣で学生も兵隊にとられる様になり、まあ一緒に入った人でも年をくっている者はみんな学徒出陣で、戦争に出かけた者の内10人のうち7・8人は死んでおります。私達のクラスでもやはり、あの、商業で、特攻隊で台湾沖で死んだ者も居りますし、あるいはシベリアへ引っぱられた者も随分大勢おまして、2・3人の人は寒いシベリアで死んだという様な事を、本当に気の毒に思っています。

上田 幸か不幸か私等のクラスはですね、勤労働員が一番良い所、旧市内で、

通うに便利でしたね。その時確か4年生頃からですね、今でいう給料をくれたわけですね。その当時月謝は確か5円くらいだったと思うんですけども、会社からは10円いただきまして、差引き5円を私有することができました。終戦直前で何も食べる物もなし、せめて映画くらいのもので、或る者は一週間ぶっ続けに同じものを見に行ったなんていう事がありました。

そして登校は全部ゲートル巻きに戦闘帽になりました。毎日学校の勉強もしないで勤労働員にやらされ、最初は午前中位学校で勉強し、午後から先生が引卒して工場へ行って働くという事だったんですが、戦争が熾烈となって来ましてですね、朝から工場です。出欠取るんですね。やっぱりそりゃあもう、出勤簿がありまして卒業してから終戦までの間はですね、非常に風紀が乱れまして、どうせ卒業させてくれないなら、まあ、よそへ行けばもっと給料いっぱいもらえるのと、先生の前でボカボカタバコを吸って、退学させてくれないかなあとそういう行為をしましたが、当時先生としては退学させられなかったんですね。終戦の後の業務命令が難しかったって言いますかね。

司会 どの工場へ行っていたんですか。

上田 私のクラスは、大島農機でしたね、そこで高射砲の弾を作っていました。

五十嵐 私等が確か3年の5月に動員令が下りまして直江津のステンレスへ行きました。7月にはいよいよ名古屋へ行ったわけですね。豊田佐吉翁の創立した豊田織機と、傍系の昭和重工業の二つの会社からできた豊和重工業へ行き、海軍の攻撃機の「銀河」の16ミリ高射砲を作る会社でした。今もその会社は、豊和重工業とって兵器を作る会社ですね。新左翼が攻め入った事がある会社です。

司会 家から遠くはなれ、一番苦勞の多かったクラスですね。

五十嵐 そうですね…、私達のクラス50名が先生に引卒されまして行ったわけですね。先生方は、一ヶ月交替でおいでになったと思いますよ。

学徒動員の思い出は、沢山あります、苦しかった事も今となっては、なんだか、懐かしい感じがしますが、当時月謝は4円50銭だったと思います。私達が名古屋へ行きました時に、高田より物価が高かったんでしょうかね、1日1円くれましたから、月に30円、月謝を引かれますと、残りを私達に、ちゃんとくれるんですが、まあ…それを貯金して帰ってきたということで4年間のうち勉強したのは2年間でした。

石川 学徒動員に関する資料は残っていませんね。

五十嵐 残っていないと思いますよ。私達が終戦になって名古屋から帰ってくる時、帰りの汽車の中で、進駐軍にみつかるといけないから、みんな処分するよう、言われましたので、何も残っていないと思いますよ。

機械科へ転科

司会 三田村さん達の学徒動員の思い出は、

三田村 2年生の時に商業科が全国的に廃上になり商業学校の生徒が全部機械科に転科になり、やれやれと思っていたら、今度は学徒動員に出されまして、今の高田市を本町筋と、それから仲町からと二分しまして、私は仲町と、それから汽車通の生徒は新井・田口の生徒が多かったものですから、そういう生徒と一緒に、今の光陽産業ですね、昔の大山工場です。そこへ行ったわけですね。戦争の激しい時で疎開の生徒が沢山居まして、50名足らずの教室に70名以上も入っていた時です。先輩が名古屋へ行っている間に我々は、市内で通勤できる工場で、非常に喜んでいました。

我々は弁当を持って通い、おかずは、珍しく工場が出たんです。あるとき、

昼になって弁当を食べようと広げたところ中は全然ない。中には砂が入っているんですよ、私が代表して工務課長に一私共の先輩、今の佐藤鋼材の社長一のところへ苦情と言いますか「これじゃ困る。何とかしてもらいたい」と言うことをお願いしたところが、あそこは軍需工場になっていまして、軍需省の役人が私服で来て居たんですね。それが横に居たのを知らないで、しゃべったものですから一翌日今の本町7丁目の専売公社ですかね、憲兵隊がありました一憲兵2人に連れられて行って「おまえは国賊だ。軍需工場で働ける者は最高の喜びだと思え」「何を不平言うんだ」と、竹刀で叩かれ文句を言われたのを覚えています。後はもう、水をかぶせられてどうなったかわからないんです。クラスの方が迎えに来てくれて、家へ戸板に乗せられて、うちのおふくろじゃないが、もう死んだと思って、一週間も全然動けなかった。それで、まあ…また工場へ行ったんですけどもね。その翌日また、偏向だっていること、脇野田の駅前に、確か18号線の工事、弾丸道路の工事始めたんです、その道路工事、朝7時までには、あそこへ行っていたんです。

石川 戦時中は、学徒報国団というのがありましたね、あれが終戦になってから、どう名称が変わったんでしょうか、生徒会(学友会)組織に変わったろうと思いますか…。

五十嵐 僕等は終戦の時、最上級生だったんですが、我々の時は、未だ学徒報国団と呼んで居ましたね。三日村さん、菊谷さんの時はどう呼んでいたんですか。

菊谷 生徒会というものは未だなかったですね。

三田村 生徒会は未だなかったですね。生徒会は、第4回卒の者からですね。ただ級長選出は、岡村君がやっていました。

石川 終戦から23、4年までは生徒会はないし、どうだったんですか。

五十嵐 私は21年3月卒業ですが、あの…私の所に、今、私柔道部にいましてね、校内の武道大会で優勝した賞状がありますが「新潟県立高田商工学校学徒報国団」と書いてあります。けれどもね、戦後は、終戦と同時に少なくとも学徒報国団とは呼ばせなかったと思うんですよ。新しい生徒会ができるまで全く空白状態じゃないんですか。

司会 クラブは…クラブと言わんで部といったね。

上田 今でいうクラブ活動の中に、ライダー部って言うのもありましたし、銃剣術もありました。それでライダーが一番ちゃちなライダーを学校の校庭に出しまして両側でロープを引っばってですね、私の記憶しているのは地上で30cm上がったと思います、それを上がった上がったということですね。

五十嵐 1、2年のときは大したことはなかったんですが、2年生のときに野球部とか、庭球部とかが廃止になったんじゃないかと思うんです。そういうものは、やっちゃいけないと廃止になってしましましてね。

石川 クラブを統括する、何か組織というものがありませんか。

三田村 ないですね、とにかく、5年生は絶対権力者です。1年生から3年生までの者が何かやりたいときには4年生に申し込み、おそろおそろ来て5年生の生徒が…。

石川 どんな部があったんですか。

白川 図書館時代はテニスと柔道、剣道、陸上競技は、忠霊塔のあたりでやり、一つ一つ積重ねて今日に来たんですね。先程お話があったようにここまで進歩してきました。

石川 19年の1年生は授業を受けていますね。

三田村 受けていますね。

石川 科目は国民科と言ったと思うんですけど…。

三田村 教科書は割当てだったんですね、5人に一冊くらいしかないです。それで、ワラ紙を10頁位とじたもので、それで制服も雨にあたると、破けてしまうような紙をね…国防色で、物資がないから教科書も…そして試験なんか殆どなし、先生方、毎日毎日翌日の教科書を、ガリ版で刷って一日一日分を、それに机もないから、みかん箱を持ってきてその上で刷るという状態でした。

終戦—商業科復活—新制高校

司会 いろんな経験をして終戦を迎える訳ですが。

五十嵐 20年8月終戦になって学徒動員から帰って見ましたら、まあ学校は、例の学校工場で“ばらこく態で”すごいもんだったですね。同級生の何人かは予科練とか特幹とかへ行って帰って来た連中もありましたし、非常に荒んだ時代で、ストーブを焚く時になりますと、学校がぼろですから、その辺にある物、皆燃やしてしまえと言う訳で、燃料がないですから、益々学校がぼろになっちゃったという印象ですね。

それから、戦後事務におられた諏訪先生ですが、私等の頃は軍事教練を教えた人ですが、自分で志願されて兵隊に行かれたんですかね、特務曹長か何かで、あの私、列車通学して居たもんですから。高田の駅で帰ろうとすると、列車の窓を開けて「オオーイ」って、呼ぶんです。誰かと思ったら諏訪先生が、兵隊から帰って来たんですね、それで荷物を持って行けと言われて学校までわざわざ行った覚えがありましたんですが、先生が帰って来られて私等に、開口一番「戦争終って良かったなあ！もう軍事教練ねえよ」って言われた時、何か寂しいような気がしました。

石原 学校工場は学徒動員で生徒が、遠く県外の工場に動員されるのを避けようという訳で、当時の吉田正元校長に頼まれ、高田合板株式会社を設立し、名古屋の新田合板の下請という形で、木製ドラム缶の製作をしたわけです。講堂が工場、玄関脇の2教室が塗装室に当ててスタートしたんです。それで学校も随分傷んだと思います。

三田村 終戦後商業科復活ということで、確か私の家でみんな集まって説明して本町の植木屋旅館の親父さんにいろいろ検討していただきまして、先輩等と一緒に私も新潟の県庁へいった覚えがあります…。それでまあ商業科復活ということで、一応5年間学んだんですが実際勉強したのは一年足らずじゃないかと思います、今の中学生より学力はないと思います。

菊谷 進駐軍がきて、一人歩きはするな、二、三人で下校しろという達しが出たような時代で、そしてまあ部を作ろうということで…卓球部だとか、野球部だとか、珠算部も、そういうまあ、学校の方の要求なのか、私等の方から芽ばえたのか知りませんが、一生懸命だったわけです。そこで私なんか、珠算部やったかと思えば、すぐだめになって卓球部をつくったとかね。そして第1回の上越選手権保持者なんですよ、その時の姿なんかみすばらしくて、勿論ラケットは木でしたしね。裸足であつたし、みるに見かねる姿でしたね。それで流行歌で言えば、青い山脈かなんかで…桃色遊戯みたいなのがはやり出した時代です。

村田 2年生の時、6・3制の学制が敷かれ併設中学の生徒、商業高校の併設2年生ということになり機械科に入って併設中学—商業科—新制高校の商業高校の卒業生となったわけです。機械に入った時も競争率は、5.5倍位になっていたかと思います。

それから商業と工業の分離の話が出て、22年の12月ですが、分離に際

して、工業関係の備品、机、椅子等を今の工業高校、その当時の弾薬庫跡へ、かついで移動しました。

入学した時は、ベニヤの学校といわれるような粗末な校舎でした。ガラスも殆どなく、冬になって寒いものですから暖を取るのに、はめ板をはずしたり…、悪い思い出もあります…学校の隣の木工所—そこが悪いたまり場だったんですが、隠れてタバコを吸ったり、三田村さん達の上だったと思いますが、特攻帰りがたまに見えまして、まあタバコを吸えと言うようなことで、五年生だったもんで。

司会 それから映画館、飲食店の出入り、長髪等は、いつ頃からですか。

五十嵐 終戦になったもんで校長先生にお願いしたら即座にお許しをいただきました。私等が5年生だったもんで…、当時高田市内の何とか新聞がありましたね、その新聞が、高田商工学校が一番先に映画を許可したってことでね、ちょっと非難めいた記事を書かれたことで、校長が私等最上級生に「君達は最上級生なんだから、ともかく学校の名誉を傷つけるような映画鑑覧をしないように注意して見てほしい」とお話されて、飲食店も自由になったのは20年だと記憶しております。

村田 それから桃色遊戯から尾を引いて長髪の問題が出てきました。毛を長くすることは今日では当たり前になっていますが、その当時は長髪が非常にあこがれの的だったんです。いろいろ申請したり、お願いしたけれども、丸坊主の方が就職の時に清潔感がもたれて良い条件になるから、それで行けと、とうとう許可にならなかったんです。

新制高校2年生になったときに初めて女子生徒が入ってきました。これが6、7人だったと思いますが、男子しかいない学校に初めて女子が見えたということで皆んな、ちやほやしたり、珍しく迎えました。

初の女子入学

司会 昭和何年ですか。

大滝 男女共学になり、最初の生徒が入って来たのは昭和25年4月です。

中村 昭和25年入学の第5回からだと思います。私等はその第2回目で、12名の女子がおります。当時はもう、先ずトイレから困ったというのは事実で、女子生徒の扱いには先生方は神経をとがらせて、何しろ500名からいる男子の中に12名の女子が放たれたわけで、風紀の問題で先生が苦労された思い出があります。同級生で恋愛結婚したのは、一人もおりませんで、女子ということで先生も貴重品扱い、はれ物にさわるような感じでした。

村田 学校の登下校は未だ挙手をして敬礼した時代です。

司会 校門に向かって？

村田 いいえ先輩が通り過ぎる時、挨拶が挙手の敬礼ということでした。

六華商事出来る

中村 私等が入ってから初めて図書館ができて、今まだおられる細谷さんが来られて、あの頃の平屋の一番奥でした。

それから六華商事、六華銀行が出来て生徒が株主で、社長、頭取を決めたり、確か出資金は500円だったと思います。

一方卒業時は不景気で、就職難、あの当時良い就職先は銀行でしたね。高田で一番初任給の良かったのは、森永商事の高田出張所で7,500円でした。普通は3,000円から4,000円位でした。東京へいった連中は、大きな会社で採ってくれないもので、浅草あたりへ行っ、今では独立した人が多いですね。

石原 就職難といえば、私達の卒業時もそうでして、非常に苦労しました。おまけに戦死者の一番多いクラスで、毎年7月の第2土曜日には18名の故人の追善供養を行っています。

生徒の気質

司会 このように思い出をたどっても半世紀の年代を過ぎていますね。続いて生徒の気質と申しましょうか、そのへんで思い出は。

渡辺 朝礼の時に、正式に言うと申合せ会といって、1学期に1回位、全校生徒が並べられて観鑑するんです。

小坂 私共の在学中が一番華やかな時代だったと思います。声が聞こえると困るからと柔道部の畳を窓際に立かけ、5年生の連中が上へあがりまして、私も一番初めに叩かれる方で、2年上の星野常吉君、私その他大分犠牲者がいると思います。現在でしたら新聞種となって校長以下、くびになることと思います。主旨は申合せ会で悪くないんですが、叩かなければ気のすまない者もいて、翌日、包帯巻いて、お母さんからリヤカーに乗せてもらって登校とか…、しかし、叩いた人より叩かれた人の方が忘れません。叩かれたことは死ぬまで忘れません。

樫野 私達の時は、4年生のとき教頭の浅川という先生に非常に野蛮なことだとして禁止されまして、申合せ会は私達の1年上からはやっていません。ということは表向きで、裏では毎日のように行っているものですから、五十嵐、上田さんのような、当時、2年生等は憂うつな毎日だったろうと思います。

上田 私達のクラスになって、いわゆるカツ入れをする者もいましたが、それが見つかって停学になった者も2・3人いまして、戦時中でしたので陛下の赤子を傷つけたというようなわけでしょうかね。

中村 私達3年のときにやめさせられました。

石川 他に何か変わった経験とか思い出を。

白川 丁度在学中に、校長先生からは在学証明書をもらい、そして警察の署長さんからは住居証明をもらって、私以下、石崎君、相場君と三人で、東京まで民情視察並びに経済状態視察ということで徒歩で行って参りました。その時、書いてやるというので本多石介先生から俳句を書いて頂いた事を覚えています。それから一番楽しかったことは3日間泊り込みでの秋の展覧会の準備の期間中、夜のストームをしたこと、又終了後は高学年は3円、低学年は1円50銭と利益の分配を受けることです。全員が自主的に独立した会計にて実践しました。

また2月下旬の上級生とのお別れのためにうさぎ汁を食べようということで、全校でうさぎ狩りを行った思い出。今一つは、先程も話に出ましたが、文部省の甲種認定試験に合格したこと、そして軍事教練が行われるようになり、新潟医専の古い村田銃の払下げになり受取りに行った時の思い出です。当時は、これで一人前の学校になったんだという気持が生徒の間にはあったと思います。

司会 時間もそろそろまいりましたので、最後に校長先生から一言…。

校長 本日は、いろいろ有難うございました。本校の先輩の方々のお話を伺ってみますと、木校の今日に至る歴史を伺うことができたわけで、その歴史を踏まえながら、生徒と共に高田商業の名を辱めないよう、覚悟を新たにされたわけです。幸い皆さんの力で60周年をやって頂きました。そしてまた、かねての念願であった甲子園に出て、それでこれからは、いよいよ緒を締めてやらなければならない時だと思えます。どうぞよろしくご支援願いたいと思えます。

司会 不手際な司会でありましたが、尽きぬ思い出を語っていただきました。

中には存分に話を伺うことが出来なかった面もあろうかと思いますが、ご容赦
ください。どうも長時間ありがとうございました。



校舎からの南葉山眺望（坂詰由美子）